

学 園 報

No.55

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>
 富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>
 富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会西田地方保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/nishiden-hoiku/>
 富山国際大学付属高等学校 URL <https://www.tuins-h.ed.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
 TEL/076-436-5139
 FAX/076-436-5444

学校法人とは



理事長

金岡 克己

この秋10月下旬から、衆議院議員選挙、富山県知事選挙、アメリカ大統領選挙が立て続けに行われました。衆議院議員選挙では、裏金問題が争点となり、与党の自由民主党公明党が過半数割れとなりました。躍進した国民民主党がキャスティングボートを握る形となり、その選挙公約である103万円の壁の引き上げが話題となっています。アメリカ大統領選挙は、共和党のトランプ元大統領が返り咲きました。これは132年ぶりの出来事です。共和党は、小さな政府を目指す保守的な政党で、自国第一を打ち出しており、ウクライナ、パレスチナ紛争へのアメリカの関与がどう変わるのか、世界が注目しています。

こうした中、衆議院議員選挙の公約では、教育の無償化、負担軽減を主張する政党が多く見受けられました。また、再選された新田知事は、こどもまんなか社会の実現、教育改革を公約に掲げています。

少子化による生産年齢人口の減少が進み、日本の将来を危ぶむ声が高まる現在、子育て支援、教育環境の充実が政策の焦点となることは、当を得たものであり、喜ばしいことと思います。

日本における教育の目的、理念を定めているのは教育基本法です。そして、幼稚園から大学にいたる学校の種別など、具体的な枠組みを規定しているのが学校教育法です。

教育基本法第六条に、「法律に定める学校は、公の性質を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる」とあります。この法律に定める法人が学校法人であり、私立学校法にその詳細が示されています。

また、第八条には、「私立学校の有する公の性質及

び学校教育において果たす重要な役割にかんがみ、国及び地方公共団体は、その自主性を尊重しつつ、助成その他の適当な方法によって私立学校教育の振興に努めなければならない」とあり、これが私学助成の根拠になるものと考えます。

このように学校法人というのは、公的な側面を強く有する団体です。非営利法人であるのみならず、固定資産税や都市計画税も免除されています。しかしながら、この学校法人の基本的な性格を誤って捉えているマスコミ、一般の方が多いと感じます。

学校法人は、国公立学校と同じく、税負担がありません。異なるのは、設立の財源が寄付か税金か、また、運営主体が公か民かの違いだけです。教育を通じて人材を育て、社会に奉仕するという公益性は同じです。

ところが、公立学校への税金投入はよいが、私立学校はまかりならんという、不可思議な言説がまかり通っています。東京大学の授業料値上げが報道された際、私学への助成は税金のムダ使いとの意見がネット上に流れました。大学・短大生の約8割が私学で学んでいます。多くの若者への教育助成をムダと断じ、社会の格差を固定化しようということでしょうか。あるいは、官が正しく民は卑しいという、官尊民卑の思想が根強く残っているということでしょうか。

歴史の教訓として、すべてを公に委ねては進歩が停滞し国の力が低下します。民の中にも非営利の公益法人が存在する、特に学校法人は高い公益性を認められた法人であるという事実を世の中に広く知っていただきたいところです。

CONTENTS

- 学校法人とは 理事長 金岡 克己 1
- 特集1 富山国際大学ローターアクトクラブが発足 ... 2
- 特集2 チャイバラ～子ども育成学部のブランディング～ ... 3

- 特集3 MDASH導入による教育改革:創立60周年の新たな挑戦 ... 4
- 特集4 DXハイスクール事業中間報告 5
- 令和6年度部門別学生・生徒・園児数等 5
- 令和5年度決算及び財務の状況 6～7
- 学園NEWS 8

富山国際大学ローターアクトクラブが発足

富山国際大学現代社会学部 准教授 マーク・フランク

ローターアクトクラブとは

ローターアクトクラブ（RAC）は、国際ロータリーの加盟クラブの一つで、さまざまな課題に取り組むことへの意欲にあふれた18歳以上の青年男女のための活動団体です。RACでは、会員自らがクラブの運営と資金管理を行い、地域社会において意義ある活動や奉仕プロジェクトを企画・実施します。また該当する地区のロータリークラブがスポンサー兼活動パートナーとして、RACを指導・支援します。

北陸地区で2団体目のRAC

富山国際大学RACは、北陸地区（2610地区）の富山南ロータリークラブと宇奈月ロータリークラブをスポンサーとして、現代社会学部の「語学サークル」が中心となり発足することとなりました。県内居住の外国人子女への日本語訓練サポートを主な活動としています。北陸地区における大学が関係する同様のRACとしては、昨年6月に発足した金城大学RACがあり、白山石川ロータリークラブの支援のもとで活動を行っています。

「語学サークル」の活動

RACの主体となる「語学サークル」は、語学力の向上とその研究を共に行うことを目的としています。今年からは、富山県に住んでいる外国籍の子供たちへの日本語教育活動の研究を開始しました。サークルではまず、日本で暮らす外国籍の子供たちの学習面を支援する団体「アレッセ高岡」の青木由香氏を富山国際大学にお招きして勉強会を行いました。そこで、日本語力や学力が十分でないために、進学を諦めて早期就

職を選ばざるを得ない子供たちの現状について知ることができました。富山県には、まだ彼らを支援する団体や制度が十分に整備されていないとのこと。海外出身の子供たちが抱える課題や現状についてお話を伺い「彼らの力になるために私たちができることは何か」について議論を深めました。

今年7月には、高岡市にある「アレッセ高岡」の教室を訪問し、現地で子供たちの学習の様子を見学させていただきました。現場では、さまざまな国籍の子供たちが一生懸命に勉強に取り組んでおり、特に、日本語を学んでいる生徒たちが問題文を音読し、各々のペースで一問一問を理解しようとする姿が印象的でした。また、特別な支援が必要なために、学校への入学が遅れている子供たちもいました。元特別支援学級の先生やポルトガル語が話せる先生など、こうした子供たちを受け入れるための体制が整っていることに驚きました。生徒たちは、小学校高学年から高校3年生まで年齢も様々で、それぞれの日本語レベルや課題も異なっており、個々に寄り添って教えていくことの重要性を実感しました。

今後、RACの活動の一環として、富山市に外国籍の子供たちを支援する団体を立ち上げ、学習支援や交流イベントを行っていきたくと考えています。活動場所は富山駅周辺が適していると考えており、現在最適な場所を検討中です。外国籍の子供たちに安心して過ごせる環境を提供するとともに、学校生活やその先で役立つ日本語スキルの向上にもつなげていきたいと考えています。



写真1 青木先生を囲む勉強会



写真2 アレッセ高岡での活動の様子

チャイバラ～子ども育成学部のブランディング～

富山国際大学子ども育成学部 講師 湯澤 卓

「子ども育成学部の魅力を、もっと発信したい」

チャイバラとは、「**チャイルド**」と「**バラ**エティ」を合わせた造語で、子ども育成学部の「学部の魅力をもっと発信したい」と願う学生有志と私（湯澤）が、学部の学生募集・ブランディングの一環として取り組んでいる活動です。

チャイバラでは、子ども育成学部の魅力や呉羽キャンパスの情報などを月に1回、YouTubeで発信しています。番組構成から機材全般のセッティング、番組ロケ、生配信まで、4年生の渡邊宗一郎さんが中心となり、全て学生が担当しています。

チャイバラの始まり

2024年4月の学部ブランディング特別委員会で、学生のアイデアをふんだんに盛り込んだ活動の重要性が共通理解され、学生による情報発信に挑戦しようと意見がまとまりました。活動のコンセプトを『子ども育成学部と呉羽キャンパスの魅力を、高校生に』とし、高校生に向けた情報発信を基軸に展開することにしました。

渡邊さんには、すぐに関わってもらいました。説明を聞いた彼は、有志を募り、年間の計画と第1回配信の計画をわずか2週間ほどで立ててくれました。5月の連休中にインタビューコーナーや企画コーナーを立案し、ロケを実施。綿密な打合せとリハーサルを繰り返し、5月24日(金)に初回生配信を迎えました。



経験を糧に、加速して

初回はトラブル続きでしたが、検証とテストを重ね、その後の生配信はスムーズにできるようになりました。6月は「梅雨」をテーマに、大学近くのアクティビティ施設を特集しました。「先生とバッティング対決」では三原茂先生に登場していただき、参加型の企画も

実現しました。また7月のテーマは「教員採用試験目前。教えて、あなたの勝負〇〇」です。子ども育成学部の学生に「勝負〇〇」をインタビューしました。7月と8月のオープンキャンパスでは、高校生の質問に答える「それ、先輩が答えます!」というコーナーを運営しました。多くの方の協力をいただき、高校生に子ども育成学部の魅力をたくさん示すことができたと思っています。

大学祭では、クイズを中心とした35分の特別生配信を実施しました。生中継やゲスト企画など、これまでのノウハウをふんだんに取り組んだ番組を配信することができ、集大成を示すことができました。



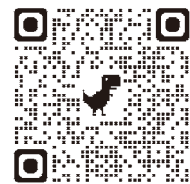
失ったものを取り戻す

チャイバラを通して、分かったことがあります。それは、子ども育成学部の学生は、様々な才能があり、意欲にあふれ、挑戦を恐れず、仲間を大切に、他者を尊重し、子ども育成学部を愛しているということです。学生の力は無限大で、コロナ禍で失った大切な何かを取り戻すことができる力をもっています。チャイバラの実現が、それを証明していると思います。子ども育成学部には、学生一人一人が輝くステージがあり、挑戦するチャンスがあります。この魅力をぜひ高校生に知ってもらいたい。そのために、チャイバラはこれからも走り続けます。応援よろしくお願ひします。

チャイバラYouTube



学部Instagram



MDASH導入による教育改革: 創立60周年の新たな挑戦

富山短期大学経営情報学科 准教授 春名 亮

データサイエンスは、至る所で頻繁に生じる多様なデータを分析し、社会課題の解決を図るために必要な先端技術の一つとして認められています。日本では2017年に初めて滋賀大学にデータサイエンス学部が開設され、昨今では多くの関心が寄せられ、同様の動きが広がっています。

富山短期大学（以下「本学」という。）は昨年度創立60周年の節目を迎え、これを契機に「データ・AI・情報リテラシープログラム」（以下「本プログラム」という。）として新たな教育プログラムを開始するとともに、本プログラムの推進委員会（委員長：筆者）を発足させました。

優れた教育プログラムを実施する大学等に文部科学大臣が認定を行う「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」（以下「MDASH」という。）が2021年度に開始され、本プログラムが本年8月に認定を受けました。（図1）2024年8月末時点でMDASHリテラシーレベルの認定を受けた短期大学（以下「短大」という。）は本学を含め46校にのぼりません（全国設置短大数：297校）[1]。



図1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベルの認定ロゴマーク

本稿では、本プログラムの概要と取り組みをご報告いたします。

本プログラムは収集したデータの分析や生成AIを利用するために必要な情報リテラシーの修得を目標としています。本学では講義「人間と情報」（以下、「本講義」という。）の教育課程に盛り込まれ、筆者が授業を行っています。MDASHリテラシーレベルのモデルカリキュラムを指標に「学生に広く実施される教育プログラム」として全学科で必修科目に位置付けられ、その単位取得を本プログラムの修了要件とし[2]、修了者には認定証を配布します。

本講義は1年次前期にオンライン形式で開講し、経営情報学科は自宅から受講しました。他3学科は本学内の教室に設置されたスクリーンを通じて受講し、講義中は各学科の教務教員が巡回し補助しています。（図2）全学科でのノートパソコン必携化や、昨年度に講義を受けた学生によるTA（ティーチング・アシスタント）制度の開始、支援が必要な学生は教室で直接受講とするなど、本プログラムの環境整備と支援体制の強化を進めています。



図2 本講義の様子

本学の創立60周年という節目の年、そして生成AIのような新たな技術が広く社会に浸透しつつある時流のなかで、本プログラムを開始できたことは誠に幸運であったと考えております。その修了者が地域社会のデジタル化に対応可能な人材として、活躍することを期待しています。

本プログラムの申請等において、ご支援いただきました教職員の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、本稿の執筆をご依頼いただきました学園広報協議会、及び本学広報センターに厚く御礼申し上げます。

参考文献

- [1] 文部科学省, “「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のポイント/認定状況について (https://www.mext.go.jp/content/20241011-mxt_senmon01-000012848_01.pdf) ” (最終閲覧日 2024.10.15)
- [2] 春名・小林: “富山短期大学におけるAI初級教育プログラムの運用”, 富山短期大学紀要第60巻, p.51-57 (2024)

DXハイスクール事業中間報告

富山国際大学附属高等学校 情報科教諭 橋本 知彦

富山国際大学附属高校の取り組みが、高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）に採択されました。現在、「ウェルビーイングに適した環境構築を自分自身で実現する」をテーマに、①「協生農法を用いた自然環境の構築」と、②「ヘルスケアデータを使った心身の健康の維持」についての授業を、データサイエンス、人工知能、センシングとロボティクスなどの技術を用いて行っています。

①の「協生農法を用いた自然環境の構築」は、生物の多様性を確保し、遅くとも2030年までに生物多様性の損失を逆転させ、回復させるネイチャー・ポジティブを実践する授業内容となっています。校舎屋上に1m四方のポッドを60基構築し、合計60㎡の農園を構築しています。このポッドに小型マイコンボードRaspberry Piを設置して、気温や湿度、土壌水分量などの環境データをセンシングし、人工衛星スターリンクを使ってGoogle CloudのデータベースBigQueryに記録しています。これまでにトマトやピーマン、茄子など多数の野菜を栽培してきました。

また、身近な場所で植物を育てるために、生徒に3DプリンターのAnkerMakeで植木鉢の3Dモデルを製作させたり、土中の細菌を適切に繁殖させる工夫を

させたりもしています。DNAの痕跡から、棲息している生物を特定する環境DNAの調査も行い、PCRでDNAを増幅させて多様性を観察しています。最終的には人間が全く関与しない、ロボットによる農園運営を目指しています。

もう一方の②「ヘルスケアデータを使った心身の健康の維持」は、これまで情報Iの授業で行ってきたスマートフォンを使った歩数分析をさらに拡大した内容となっています。慶應義塾大学の小熊裕子先生をお招きして、身体不活動の問題や、WHO、各国政府、自治体が行っている健康政策について学び、今後は、プログラミング言語Pythonを用いた歩数データ分析、人工知能を使った身体の姿勢推定に取り組む予定です。



令和6年度部門別学生・生徒・園児数等

2024（令和6）年5月1日現在（単位：人）

部門	学部・学科名等	収容定員 (A)	1年	2年	3年	4年	合計 (B)	定員充足率 (B/A)	備考
大 学	現代社会学部	490	99	113	122	113	447	91.2%	
	子ども育成学部	370	90	93	95	102	380	102.7%	
	小 計	860	189	206	217	215	827	96.2%	
短 大	食物栄養学科	160	70	60			130	81.3%	
	幼児教育学科	160	63	84			147	91.9%	
	経営情報学科	220	109	89			198	90.0%	
	健康福祉学科	80	27	23			50	62.5%	
	専攻科食物栄養専攻	30	8	9			17	56.7%	
小 計	650	277	265			542	83.4%		
高 校	全日制普通科	750	311	282	254		847	112.9%	
幼稚園		110	3歳児 29	4歳児 25	5歳児 25		79	71.8%	
総 計		2,370					2,295	96.8%	

令和5年度 決算及び財務の状況

決算及び財務の状況

令和5年度の事業報告及び決算は、2024（令和6）年5月29日開催の理事会・評議員会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

大学

大学は、現代社会学部は入学定員を下回り、子ども育成学部は入学定員を上回り、大学全体においては収容定員を僅かに下回りました。当年度収支差額では、77,371千円（R4 118,925千円）の黒字計上となりました。補助金は、国等の方針により度々要件が変更になることから、安定的に確保することが難しくなっています。従って、収入源として確実な学生数を安定的に確保することに努める必要があります。

短大

短大は、幼児教育学科以外の学科で入学定員を下回ることとなり、短大全体においては収容定員を下回りました。学生生徒等納付金収入の減少等により、当年度収支差額は△166,918千円（R4 △55,282千円）と赤字となりました。少子化や全国的な4年制大学志向の高まりなどを考慮すると、今後さらに厳しさが増していくことが予想されます。

高校

高校は、入学定員を上回り、高校全体においても収容定員を確保できました。当年度収支差額は、57,158千円（R4 21,055千円）となり、前年度より黒字額が増となりました。

幼稚園

幼稚園は、全体では定員を下回りました。当年度収支差額は、△4,642千円（R4 △9,666千円）と赤字となりました。今後は、多様な保育ニーズに応えることにより、安定的に園児数を確保することが必要です。

学園全体の決算及び財務状況

事業活動収支計算書（当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの）において、事業活動収入合計が2,716百万円（対前年度比131百万円減）、事業活動支出合計が2,766百万円（同13百万円増）、以上のことから、事業活動収支は50百万円（同144百万円減）の赤字となりました。

収入減の主な要因は、①学生生徒納付金の減、②寄付金の減等によるものです。

支出増の主な要因は、教育研究経費等が前年度に比べ増となったことなどによるものです。

この結果、令和6年度への翌年度繰越収支差額（累積赤字）は、令和4年度の前年度繰越収支差額△2,242百万円に、令和5年度の当年度収支差額△79百万円を加え、△2,321百万円となりました。

資金収支計算書

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	5年度予算	5年度決算①	前年度決算②	差異①－②
収入の部				
学生生徒等納付金収入	1,920,931	1,903,274	1,983,366	△ 80,092
手数料収入	39,757	32,396	33,926	△ 1,530
寄付金収入	1,503	1,960	16,820	△ 14,860
補助金収入	615,447	685,224	639,553	45,671
資産売却収入	1	0	0	0
付随事業・収益事業収入	28,274	21,758	22,169	△ 411
受取利息・配当金収入	2,320	1,033	1,359	△ 326
雑収入	50,110	51,495	126,247	△ 74,752
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	451,630	405,660	417,325	△ 11,665
その他の収入	129,465	145,230	133,584	11,646
資金収入調整勘定	△ 489,825	△ 487,091	△ 579,568	92,477
前年度繰越支払資金	1,085,116	1,085,116	1,062,118	22,998
収入の部合計	3,834,729	3,846,055	3,856,899	△ 10,844
支出の部				
人件費支出	1,657,892	1,620,719	1,695,877	△ 75,158
教育研究経費支出	754,844	631,553	584,020	47,533
管理経費支出	162,655	151,723	134,138	17,585
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	30,248	1,262	16,496	△ 15,234
設備関係支出	77,623	72,898	87,905	△ 15,007
資産運用支出	4,512	237,249	339,151	△ 101,902
その他の支出	201,002	158,504	113,698	44,806
(予備費)	(0)			
資金支出調整勘定	△ 123,000	△ 77,688	△ 199,502	121,814
翌年度繰越支払資金	1,053,453	1,049,835	1,085,116	△ 35,281
支出の部合計	3,834,729	3,846,055	3,856,899	△ 10,844

事業活動収支計算書

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	5年度予算	5年度決算①	前年度決算②	差異①－②
教育活動収入の部				
学生生徒等納付金	1,920,931	1,903,274	1,983,366	△ 80,092
手数料	39,757	32,396	33,926	△ 1,530
寄付金	3,506	2,296	17,140	△ 14,844
經常費等補助金	615,447	684,818	639,259	45,559
付随事業収入	28,274	21,758	22,169	△ 411
雑収入	50,109	65,003	137,756	△ 72,753
教育活動収入合計(1)	2,658,024	2,709,545	2,833,616	△ 124,071
教育活動支出の部				
人件費	1,661,892	1,648,709	1,710,986	△ 62,277
教育研究経費	1,072,844	952,560	898,781	53,779
管理経費	167,454	155,064	137,927	17,137
徴収不能額等	2	0	0	0
教育活動支出合計(2)	2,902,192	2,756,333	2,747,694	8,639
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 244,168	△ 46,788	85,922	△ 132,710
教育活動外収入の部				
受取利息・配当金	2,320	1,033	1,359	△ 326
その他の教育活動外収入	0	0	0	0
教育活動外収入合計(4)	2,320	1,033	1,359	△ 326
教育活動外支出の部				
借入金等利息	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,320	1,033	1,359	△ 326
經常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 241,848	△ 45,755	87,281	△ 133,036
特別収入の部				
資産売却差額	2	0	0	0
その他の特別収入	3,603	6,074	12,234	△ 6,160
特別収入合計(8)	3,605	6,074	12,234	△ 6,160
特別支出の部				
資産処分差額	6,100	10,343	5,289	5,054
その他の特別損失	1	0	529	△ 529
特別支出合計(9)	6,101	10,343	5,818	4,525
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△ 2,496	△ 4,269	6,416	△ 10,685
【予備費】(11)	(0)			
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 259,844	△ 50,024	93,697	△ 143,721
基本金組入額合計(13)	6,059	△ 29,358	△ 51,343	21,985
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 253,785	△ 79,382	42,354	△ 121,736
前年度繰越収支差額(15)	△ 2,241,607	△ 2,241,607	△ 2,283,960	42,353
基本金取崩額(16)	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△ 2,495,392	△ 2,320,989	△ 2,241,606	△ 79,383
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,663,949	2,716,652	2,847,209	△ 130,557
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,923,793	2,766,676	2,753,512	13,164

令和5年度学校法人富山国際学園財務分析について

令和5年度決算の財務分析によると、大学・高校では、経常費ベースでの収益性は前年度に引き続き、おおむね良好であるものの、法人全体では悪化しており、安全性を高める必要がある。短期的な支払い能力（返済力）は特に問題なしと判断される。

事業活動収支差額比率（損益ベースでの収支状況）は、学園全体でマイナスであり、中でも短大・幼稚園がマイナスとなっていることから、定員割れの状況を打開することが必要である。**人件費比率**（人件費の収入に対するバランス）では、短大・高校・幼稚園が60%を超えており、対策が必要である。また、**教育研究費比率**（教育研究費の経常収入に占める割合）は目安とされる30%を高校は下回っており、今後、収支の均衡を失しない限り、教育活動への更なる投資を目指す必要がある。

積立率（安定的に経営を行う上での保有資産の状況）は85.0%と100%以下であることから、長期的に必要な資金を確保できていないため、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要がある。

流動比率（短期的な支払い能力）は206.2%と返済力に問題はない。

今後、本学園は教育活動の維持・向上及び短大などの施設老朽化に伴う修繕費の増加が見込まれることを考慮すると、更に収益性を高め、運用資産を増加させて安全性を高めていかなければならない。

【参考】財務指標の意味

（日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより）

①**事業活動収支差額比率**【基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入】
事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合で、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。

②**人件費比率**【人件費／経常収入】
人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因ともなる。

③**教育研究費比率**【教育研究経費／経常収入】
教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究経費は、教育活動に維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。

④**積立率**【運用資産／要積立額】
運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券
要積立額＝減価償却累計額＋退職給付引当金＋2号基本金＋3号基本金
学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。長期的に必要な資金需要（保有すべき要積立額）に対し、実際にどの程度運用資産として保持しているかを把握する指標となる。

⑤**流動比率**【流動資産／流動負債】
流動負債に対する流動資産の割合であり、1年以内に返済義務のある借入金等の流動負債に対して、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標である。一般的には200%以上であれば優良とみなされる。

【主な財務指標】

（単位：千円）

	①	②	③	④	⑤			
法人全体	2,716,652	2,766,676	-50,024	-1.8%	60.8%	35.1%	85.0%	206.2%
大学	1,088,414	1,008,432	79,982	7.3%	52.4%	33.9%		
短大	807,335	956,067	-148,732	-18.4%	67.0%	44.7%		
高校	719,479	652,933	66,546	9.2%	62.2%	25.6%		
幼稚園	96,712	101,187	-4,475	-4.6%	61.8%	42.6%		

活動区分資金収支計算書

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

（単位：千円）

貸借対照表

令和6年3月31日

（単位：千円）

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	12,687,957	12,728,672	△ 40,715
有形固定資産	7,051,910	7,306,895	△ 254,985
特定資産	5,634,722	5,420,452	214,270
その他の固定資産	1,325	1,325	0
流動資産	1,146,500	1,231,824	△ 85,324
資産の部合計	13,834,457	13,960,496	△ 126,039
負債の部			
固定負債	618,334	615,110	3,224
流動負債	555,992	635,231	△ 79,239
負債の部合計	1,174,326	1,250,341	△ 76,015
純資産の部			
基本金	14,981,120	14,951,762	29,358
第1号基本金	14,779,534	14,756,183	23,351
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	13,586	13,579	7
第4号基本金	188,000	182,000	6,000
繰越収支差額	△ 2,320,989	△ 2,241,607	△ 79,382
純資産の部合計	12,660,131	12,710,155	△ 50,024
負債及び純資産の部合計	13,834,457	13,960,496	△ 126,039

科目	金額	科目	金額
教育活動による資金収支		その他の活動による資金収支	
収入		収入	
学生生徒等納付金収入	1,903,274	借入金等収入	0
手数料収入	32,396	退職給付引当特定資産取崩収入	22,979
特別寄付金収入	1,960	修学旅行費預り資産取崩収入	1,439
一般寄付金収入	0	預り金受取収入	2,203
経常費等補助金収入	684,818	小計	26,621
付随事業収入	21,758	受取利息・配当金収入	1,033
雑収入	51,238	過年度修正収入	257
教育活動資金収入計(1)	2,695,444	その他の活動資金収入計(2)	27,911
支出		支出	
人件費支出	1,620,719	借入金等返済支出	0
教育研究経費支出	631,553	第3号基本金引当特定資産繰入支出	7
管理経費支出	151,724	退職給付引当特定資産繰入支出	37,242
教育活動資金支出計(2)	2,403,996	学園施設等充実引当特定資産繰入支出	200,000
差引(3)=(1)-(2)	291,448	預り金支払支出	1,593
調整勘定等(4)	△ 40,606	修学旅行費預り金支払支出	1,439
教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)	250,842	小計	240,281
施設整備等活動による資金収支		収入	
施設設備借付金収入	0	借入金等利息収入	0
施設設備補助金収入	407	過年度修正支出	0
施設設備売却収入	0	その他の活動資金支出計(3)	240,281
施設整備等活動資金収入計(6)	407	差引(4)=(2)-(3)	△ 212,370
支出		調整勘定等(5)	0
施設関係支出	1,262	その他の活動資金収支差額(6)=(4)+(5)	△ 212,370
設備関係支出	72,898	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)(7)+(6)	△ 35,281
施設整備等活動資金支出計(7)	74,160	前年度繰越支払資金	1,085,116
調整勘定等(8)	△ 73,753	翌年度繰越支払資金	1,049,835
施設整備等活動資金収支差額(8)=(7)+(8)	△ 73,753	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)(9)=(5)+(8)	177,089

部門別事業活動収支計算書

（単位：千円）

活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人	活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,903,274	886,400	620,944	394,790	1,140	0	特別収入の部	経常収支差額(7)=(3)+(6)		△ 45,755	86,008	△ 146,772	63,362	△ 5,008	△ 43,345		
		手数料	32,396	12,376	9,343	10,642	35	0		収入差額の部	資産売却差額	0	0	0	0	0	0	0	
		寄付金	2,296	1,500	460	11	325	0		0	その他の特別収入	6,074	758	1,560	3,223	533	0	0	
		経常費等補助金	684,818	163,907	132,944	303,792	84,175	0		0	特別収入合計(8)	6,074	758	1,560	3,223	533	0	0	
		付随事業収入	21,758	3,090	13,136	0	5,532	0		0	支出差額の部	資産処分差額	10,343	6,784	3,520	39	0	0	0
		雑収入	65,003	20,161	28,793	7,021	4,972	4,056		0	0	その他の特別支出	0	0	0	0	0	0	0
		教育活動収入合計(1)	2,709,545	1,087,434	905,620	716,256	96,179	4,056		0	特別収支合計(9)	10,343	6,784	3,520	39	0	0	0	
		人件費	1,648,709	569,538	539,534	445,851	59,431	34,355		0	特別収支差額(10)=(9)-(8)	△ 4,269	△ 6,026	△ 1,960	3,184	533	0	0	
		教育研究経費	962,560	368,547	359,965	183,094	40,954	0		0	基本金組入前当年度収支差額(11)=(7)+(10)	△ 50,024	79,982	△ 148,732	66,546	△ 4,475	△ 43,345		
		管理経費	155,064	63,563	53,048	23,949	802	13,702		0	基本金組入額合計(12)	△ 29,358	△ 2,611	△ 18,186	△ 9,388	△ 167	994		
徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	0	当年度収支差額(13)=(11)+(12)	△ 79,382	77,371	△ 166,918	57,158	△ 4,642	△ 42,351					
教育活動支出合計(2)	2,756,333	1,001,648	952,547	652,894	101,187	48,057	0	前年度繰越収支差額(14)	△ 2,241,607	0	0	0	0	0	0				
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 46,788	85,786	△ 146,927	63,362	△ 5,008	△ 44,001	0	基本金取崩額(15)	0	0	0	0	0	0	0				
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	1,033	222	155	0	0	656	特別収入合計	経常活動収入合計(1)+(4)+(6)	2,716,652	1,088,414	807,335	719,479	96,712	4,712			
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0		事業活動支出合計(2)+(5)+(9)	2,766,676	1,008,432	956,067	652,933	101,187	48,057			
		教育活動外収入合計(4)	1,033	222	155	0	0	656		事業活動収支合計(1)-(2)	△ 50,024	79,982	△ 148,732	66,546	△ 4,475	△ 43,345			
支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0	0	特別収支合計	施設整備等活動資金収支差額(16)=(13)+(14)+(15)	△ 2,320,989	0	0	0	0	0				
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0		特別収支差額(17)=(16)-(15)	△ 2,320,989	0	0	0	0	0				
	教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0	0	0		調整勘定等(18)	0	0	0	0	0	0				
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	1,033	222	155	0	0	656													

富山国際大学

マレーシアでの国際交流実習スタート



2024（令和6）年9月に新たにマレーシア・ボルネオでの国際交流実習が開始されました。参加学生6名と引率教員2名が渡航し、コタキナバル近くの、ドゥスン民族を主とするコブニ村においてホームステイと地域交流を行いました。また国立サバ大学の学生たちとの交流、保護区への訪問や民族文化の体験を通して現地の文化に対する理解を深めました。最終日は本学学生からサバ大学、並びにコブニ村の皆さんへプレゼンテーションと討議のワークショップを英語で行いました。マレーシア研修は今年度をスタートとして来年度以降も継続して実施の予定です。

大学の国際交流としては、今年度は10月までの時点でカナダ9名、フランス2名、中国1名、マルタにはオンラインで1名が留学を開始しました。後期は韓国やカナダ等で研修や留学の実施が予定されています。

富山短期大学

第4回呉羽キャンパス合同大学祭を開催しました

2024（令和6）年10月19（土）・20（日）、私たち学生会は、富山国際大学子ども育成学部の学友会と共同で第4回呉羽キャンパス合同大学祭を開催しました。大学祭のテーマは「縁JOY!」。人々との縁を紡いで楽しもうという願いを込めました。

模擬店や各企画・発表に加えて附属高校や附属みどり野幼稚園、地域住民の方々に多数ご参加いただき、多様な彩りが添えられて、盛況に終えることができました。達成感と感謝の気持ちでいっぱいです。

開催に至るまで準備の遅れや意見の相違など多くの困難に直面しましたが、率直な意見交換や情報共有が重要であることに気づき、終盤には活発なコミュニケーションで強い協力関係が築けました。この経験は、私たち自身の成長にもつながったと思います。



富山国際大学附属高等学校

飛込 坂田力毅さん ジュニア五輪シンクロで金



坂田力毅さん（26H）は、2024（令和6）年8月22日～25日に滋賀県で行われた第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季競技大会で、片岡三亮選手（concent）と男子（12～18歳）シンクロ3m板飛び込みに出場し、261.51点で見事、優勝しました。また8月30日から同会場で行われた第100回日本選手権でも、片岡選手とのシンクロ板飛び込みで2位に入賞しました。

「来年の全国大会で、個人競技でも表彰台に乗る」ことが坂田さんの今の目標。それに向け、「種目の難易度や完成度を上げなければならない。筋力を増加したり、フォームを修正したりしていかなければならないので、そこが辛いところかな」と話してくれました。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

ケーブルカーで美女平へ

2024（令和6）年10月17日（木）、年長児は遠足で立山に行きました。年長児は電車が大好きで、目標をケーブルカーにのって美女平に行くことにしました。まずは、雄山神社に立ち寄り、「楽しい遠足になるように」とお参りしました。次は立山駅へ向かいました。駅のホームで待っているとケーブルカーが見えてきて、「きたよ、かっこいい!」と大興奮でした。そして、ケーブルカーにのって美女平に出発です。ぐんぐん登っていくケーブルカーに「どんどん高くなっていく!」「ガタゴトいっている」などと景色や音の違いを感じていました。美女平では大きな立山杉（美女杉）をみて「すごい、太い!」と立山杉の歴史を感じ、ビックリしていました。立山ならではの経験をいっぱいすることができ、楽しい遠足となりました。

